

最新版 「呼吸機能検査ハンドブック」の魅力

松永和人

山口大学大学院医学系研究科呼吸器・感染症内科学講座教授



呼吸機能検査 ハンドブック

編集：日本呼吸器学会 肺生理専門委員会
呼吸機能検査ハンドブック作成委員会
発行所：一般社団法人 日本呼吸器学会
発売元：株式会社メディカルレビュー社
定価：4,400円(本体4,000円+税10%)
体裁：A4判変型／108ページ／本文2色
発行：2021年7月21日
ISBN：978-4-7792-2387-7



本書の詳細はこちらから

この度、17年ぶりに日本呼吸器学会肺生理専門委員会編集の「呼吸機能検査ハンドブック」が発行されました。呼吸器疾患の診療に携わるすべての医療従事者の標準的な実用書としてベッドサイドでの活用を目指した本書の魅力をお伝えしたいと思います。

1. 呼吸機能検査の組み立て方

呼吸機能検査は症状や画像で知り得ない臨床情報をもたらします。本書は換気障害(閉塞性・拘束性)とガス交換異常の有無を確認するスパイロメトリーと血液ガス分析を一次検査に位置付けました。さらに、障害されている機能や部位を診断するための二次検査(気道過敏性、肺拡散能、肺気量の測定など)の進め方がフローチャートで図示されました。

2. 臨床診断における呼吸機能検査の意義

喘息、COPD、IPFなどの機能異常を呈する疾患について呼吸機能検査のポイントが解説されています。また、肺高血圧症、気腫合併肺線維症などの評価における二次検査の意義や閉塞性細気管支炎のように鑑別が難しい疾患の診断の進め方が具体的に示されています。

3. ベッドサイドで活用できる手引書

最も基本的な呼吸機能検査であるスパイロメトリーから、肺拡散能、肺気量分画の測定、オシロメトリー、気道過敏性検査、運動負荷試験まで、用語の定義、測定原理、測定方法の実際、基準値と結果の解釈、精度管理の順で実践に即して解説されており、臨床検査技師や看護師を含む呼吸器診療にかかわるすべての医療従事者にベッドサイドで活用いただけます。ところで、肺活量検査の妥当性はどのような基準で確認のでしょうか？肺線維症患者のフローボリューム曲線はなぜ上に尖った凸の形状になるのでしょうか？肺拡散能(DLCO)はなぜ、肺胞気量(VA)で補正されるのでしょうか？少しでも曖昧な点がある場合は本書を開いてご確認ください。とてもわかりやすく解説されています。